

平成28年度

年間重点努力目標

(あきた型学校評価)

秋田県立秋田工業高等学校

平成 28 年度
年間重点努力目標

目 次

[学年部]

1 年 部		1
2 年 部		2
3 年 部		3

[教科・学科組織]

国 語 科		4
地歴・公民科		5
数 学 科		6
理 科		7
保 健 体 育 科		8
英 語 科		9
芸 術 科		10
家 庭 科		11
機 械 科		12
電気エネルギー科		13
土 木 科		14
建 築 科		15
工 業 化 学 科		16

[業務組織]

総 務 部		17
教 務 部		18
保 健 部		19
生徒指導部		20
進路指導部		21
特別活動部		22
教育相談部		23
図書視聴覚部		24
研修国際部		25
情報・広報部		26

[学年部]

評価領域	1 年部
------	------

重 点 目 標	充実した高校生活にするため、基本的な生活習慣を確立し、目標に向かって挑戦させる。	P
▽		
現 状	1 工業科の科目への意識が低く、学習習慣が身につけていない生徒が多いように思われる。 2 資格取得に対する意識が低く、取得可能な資格の情報が少ない。 3 部活動に加入していない生徒が多いように思われる。	
▽		
具 体 的 な 目 標	1 基本的な生活・学習習慣の確立を目指す。 2 真摯な態度を育成するとともに他人を思いやる心を育てる。 3 将来への人格形成のためにも、部活動への加入を促進する。 4 資格取得を高校生活の柱の一つにさせる。 5 進路目標を設定し、その目標達成への意識を高める。	
▽		
目 標 達 成 の た め の 方 策	1 基本的な生活・学習習慣の確立を目指すため (1) あいさつを励行させる。 (2) 機敏に行動し、時間の遵守を習慣化させる。 (3) 早めに登校し、朝学習から落ち着いた姿勢を身につけさせる。 (4) 校則やルールなどを遵守させる。 2 真摯な態度を育成するとともに他人を思いやる心を育てるため、集団の中での規律を重んじ行動するよう指導する。 3 部活動への100%加入をめざす。 4 資格取得の推進のため (1) 各科等の協力を得るとともに、朝学習などの時間を利用し資格取得の補習を実施する。 (2) ジュニアマイスター顕彰制度を意識させ、各科ごとの取得パターンを確認させる。 5 進路目標を設定し、その目標達成への意識を高めるため (1) 進路希望調査を利用し、進路希望にそった計画を立てさせる。 (2) 先輩講話などを活用しキャリア教育の充実を図る。	

重 点 目 標	1 中堅学年として学校生活、生徒会活動、部活動等の中心的役割を果たせる生徒を育成する。 2 進路指導を充実させ、進路意識を育成する 3 進路実現のために必要な基礎学力、社会性の育成 4 資格取得の充実
---------	---



現 状	1 各種活動での自発的な行動が少ない。 2 進路について漠然としていて、自分の進路に見合った努力が不足している。 3 基礎学力育成のためのキャリアアップテストの合格率が低い。規則に対する考え方や人間関係など幼い面が指摘されている。 4 資格取得の合格率が思わしくない。
-----	---

P



具体的な目標	1 各種活動へ積極的に参加する生徒や自発的に活動する生徒の育成。 2 進路指導の充実。ガイダンス、模擬試験などの実施と事後指導の充実。 3 基礎学力の充実。キャリアアップテストの合格率を80%以上に。実力診断テストの成績の向上。 4 資格取得への計画的な挑戦の推進。
--------	--



目標達成のための方策	1 積極的、自発的な生徒育成 ・全国、全国プレ産業教育フェアへの積極的な参加。 ・17歳プロジェクトへの参加。 ・集会等によるプレゼン能力の育成。 ・学校行事などでの積極性や自発性を育成する。 ・資格取得の表彰を宣伝し、取得への積極性や自発性を促す。 2 進路指導の充実 ・SPI模試の実施。 ・キャリアアップテストで一般常識問題に取り組む。 ・インターンシップをとおしての進路意識の育成。 ・総合的な学習の時間での各種進路情報の伝達。 3 基礎学力充実 ・保護者の協力を得ながらの家庭学習の充実。 ・部活動指導者の協力による学習時間の確保。 ・適切な長期休業中の課題。 ・適切な教材の提供と指導。 4 資格取得への計画的挑戦の推進 ・資格取得の学年目標を学年職員で共有し、生徒には1年間の取得計画を立案させる。各科等の協力を得ながら、朝学習を活用し、資格取得を推進する。 ・資格指導体制の確立。
------------	---

重 点 目 標	1 最高学年として下級生の模範となる生徒を育成する 2 生徒に希望進路を明確にさせて、希望進路を実現させる 3 社会人としての資質を育成する 4 将来のスペシャリスト育成
▽	
現 状	1 集団活動では評価が高いが、個々のレベルでは学習活動、服装容儀、部活動の態度などで意識の低い生徒が見られる。 2 自分の目標や進路を決めることができていない生徒が見られる。 3 学校内では通用しても社会人としての常識、知識、マナー、判断力、技能などが不足と思われる生徒が多い。 4 資格試験への受験者は多いが合格率が低い。
▽	
具 体 的 な 目 標	1 個々の生徒の生活習慣の定着 2 自己の適性や能力に応じた進路目標の達成 3 社会性、協調性、規範意識の育成 4 ものづくり、資格取得の推進
▽	
目 標 達 成 の た め の 方 策	1 生活習慣の定着について (1) 服装容儀を整え、挨拶の励行、遅刻防止、規則の意味を周知徹底。 (2) 身の回りの整理整頓、危険の回避、自分を大切にする姿勢を育成。 2 自己の適性や能力に応じた進路目標の達成について (1) 授業や朝学習を大切にする指導を継続。進路実現に必要な学力を定着させる。 (2) 一人一人の生徒に応じたきめ細かい面談、学習計画と指導。 3 社会性と協調性の育成について (1) 集団の目標を理解した行動、他者に配慮した行動や態度の育成。 (2) 規範意識を育み、自己責任のもとで物事を実践させる。 (3) 主権者教育、租税講話、消費者教育講話などの実施。副読本を推薦。 (4) 自主的な地域貢献の行事を考え実施する。 4 将来のスペシャリスト育成について (1) ものづくり大会への積極的参加と県代表権の獲得。 (2) 社会貢献を意識した課題研究。英語での発表。 (3) 資格取得の促進。個人目標を学年として管理。受験の推進と指導者のコーディネート。専門の難関資格の取得へ挑戦。 (4) 英語能力の育成の資格試験への積極受験と指導。

P

[教科・学科組織]

評価領域	国語科
------	-----

重 点 目 標	様々な文章に触れ、論理的思考能力を養成し、問題意識を喚起させるとともに、正確に読み書きする能力を育成する。	P
▽		
現 状	1 単位数の制限（１年次３単位、２年次２単位、３年次３単位）があり、年間の授業で扱う単位数に限りがある。とくに古典分野においてその傾向が強い。 2 漢字の読み書きや記述式問題を苦手とする生徒が多く見られる。	
▽		
具体的な目標	文章を正しく読解できるとともに、自分の意見や考えを論理的に書ける、話せるようにする。	
▽		
目標達成のための方策	指導事項の定着を図るべく、次の手立てを講じる。 1 語句調べプリントで語彙力を向上させ、評論用語に慣れさせる。 2 課題プリントにより、学習事項の明確化とスピード化を図る。 3 長期休業課題として、テーマ型・課題文型の作文、小論文を課す。 4 漢字の読み書きの定着を図るために、漢字力補強テキストに取り組ませる。 5 問題集を持たせ、多くの文章に触れさせることで継続した学習の習慣化を図るとともに、知的好奇心を喚起させる。 6 現代文単元終了時に、まとめ学習として２００字程度の意見文を書く機会を設け、作文・小論文対策の足がかりにさせる 7 論理的読解能力を引き出すべく、朝学習時に小問にアプローチさせる。 8 授業時に他者の意見を聞く姿勢を身につけさせる。	

重 点 目 標	1 基礎学力の定着 2 指導内容の精選と学習方法の工夫	P
▽		
現 状	1 基本的な学習姿勢が身に付いている。 2 社会事象への関心は高いが、基礎知識がやや不足している。 3 資料を用いて、話し合いや発表をする機会が少ない。 4 地歴科目を大学受験科目として必要とするケースが少ない。	
▽		
具 体 的 な 目 標	1 社会事象に関心を持ち、課題を主体的に解決する力の育成 2 資料を活用し、話し合いや発表など言語活動の充実 3 進路指導（個別指導）への対応	
▽		
目標達成のための方策	1 生徒の実態に合わせた学習内容の精選 2 時事問題やニュースを積極的に授業に取り入れる 3 課題解決型演習（テーマ学習）の実施 4 指導プリントによる学習の効率化 5 思考力を問う定期考査問題の工夫 6 就職者・公務員受験者・大学受験者への個別指導	

評価領域	数学科
------	-----

重 点 目 標	1 基礎学力定着を図る。 2 進路希望に応じた学習指導を実施する。
▽	
現 状	1 中学校で学習した内容が十分理解できていない生徒がいる。 2 クラス間の学力の開きが大きい。クラス内での生徒の学力差も大きい。 3 就職希望、進学希望の生徒たちそれぞれに必要な学習内容、学力水準が異なり、2・3年生では希望進路に応じた教科指導が求められる。
▽	
具 体 的 な 目 標	1 基礎学力を定着させ、生徒が希望進路を達成するために必要な学力を身につけさせる。 2 学力不足の生徒が単位不認定や原級留置につながらないよう、きめ細かな学習指導を心がける。 3 センター試験を受験する生徒には数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・Bともに40%以上の得点率を収めさせることを目安として指導する。
▽	
目 標 達 成 の た め の 方 策	1 2・3年生に対してコース別に2クラス3展開し、希望する進路や学力に応じた学習指導を行う。 2 学力不足が心配な生徒がいる1年生のクラスには基礎コースを設ける。また、各学年で必要に応じ個別指導を行う。 3 進学希望者に対し長期休業中に補習を実施する。2, 3年生には平日に昼補習を実施する。 また口頭試問対策として個別指導をする。

P

評価領域	理 科
------	-----

重 点 目 標	1 学習意欲を高め、基礎学力の向上を図る。 2 教科の特色を生かした指導を図る。 3 工業の要となる自然科学の基礎的素養を身につけさせる。
▽	
現 状	1 潜在的に学習意欲が高い生徒が多い。 2 教科書の内容をベースに、日常生活に即した教材で指導している。 3 工業科の授業とリンクする内容に関して、特に意欲が高い。
▽	
具 体 的 な 目 標	1 意欲的・主体的に学べるような授業展開を行う。 2 身近な教材を取り上げることで、興味・関心を喚起し、学習意欲を高めさせる。 3 工業科での既習事項を意識した説明を心がける。
▽	
目 標 達 成 の た め の 方 策	1 教材研究、授業研究を綿密に行う。 2 初任者の研修、校内研修等を機会に、指導法や評価法についての研修に努める。 3 工業科での学習内容を把握し、教材に取り入れる。

P

重 点 目 標	1 体育分野 ・技能を高めるための運動の実践を通して、運動する楽しさやできるようになる喜びを深く味わうことができるようにするとともに、運動を継続する資質や能力を育てる。 ・自己の心身の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てるとともに、公正、協力、責任等の資質を高め、健康・安全に留意しながら生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。 2 保健分野 ・個人生活及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるとともに、生涯を通じて自らの健康に関心を持ち、適切に管理し改善していく資質や能力を育てる。 ・命の尊さに関する課題に対応させるとともに、心の健康の保持増進についての理解を図る。	P
▽		
現 状	・運動能力は上級生になるほど高く意欲も高い。更に、互いに協力しながら個々の能力に応じた実践ができている状況にある。また、運動部員が中心となり十分な運動量を確保できている。 ・自己の心身の状況や場の安全に配慮して運動実践ができる状況にある。 ・個人の生活及び健康管理、交通安全に対する関心がやや低いため、命の大切を再認識させる必要がある。	
▽		
具 体 的 な 目 標	1 体育分野 (1)運動についての基礎的・基本的な知識や技能を習得し、個の能力や課題に応じた活用ができるように取り組む。 (2)自己の体力について理解し、主体的に運動能力の向上に努めるように取り組む。 (3)自ら考え、協力し合い責任を果たそうとする態度を身につけ、意欲的・計画的に運動する意欲と態度を養うように取り組む。 2 保健分野 (1)生涯を通じて自己の健康を適切に管理し改善していく知識を身に付けるとともに、日常生活における生活習慣病の予防指導に取り組む。 (2)命の大切さや応急手当の意義を理解し、生徒が自ら実践できるように取り組む。	
▽		
目標達成のための方策	1 体育分野 (1)生徒の実態（興味・関心・運動能力等）の的確な把握と指導・支援、場の工夫等を計画的に実践する。 (2)新体力テストを活用し、自己の体力についての課題意識をたせて主体的に取り組めるように実践する。 (3)選択制授業を通じて主体的に活動できる場を提供し、技能や表現力の向上を図るとともに、グループリーダーの育成を実践する。 2 保健分野 (1)生活習慣病や心身の健康への理解を深めさせ、生涯の健康に興味関心をもつように生徒の実態や実社会に即した内容を実践する。 (2)性感染症、交通安全や妊娠・出産、応急手当の単元で補助教材等を活用した実習を実践する。	

重 点 目 標	卒業後に困らないだけの英語学習能力と、英語でコミュニケーションを取ろうとする意欲を育てる。
---------	---



現 状	英語学習の意義は認識しつつも、学習態度がまだ受け身なものにとどまっている生徒が多い。基本的な知識をしっかりと習得させるとともに、英語の運用機会を増やし、自ら英語を学び、英語で話してみようとする姿勢をよりいっそう養う必要がある。
-----	---



具 体 的 な 目 標	1 英語でコミュニケーションができるように指導する。 2 総合的な英語力が身につくように指導する。 3 英語に対する親しみを持たせ、効果的な学習方法を体得させる。
-------------	---



目標達成のための方策	1 各学年の学習到達目標に沿って、「聞く・読む・話す・書く」の4技能のバランスのとれた指導となるように心がけ、その達成状況を把握する。 2 授業は極力英語を使って行い、生徒が英語で発話したり練習したりする時間をできるだけ多く確保する。また、生徒が「自分で学ぶ」ことができるように導く。 3 全クラスでスピーキングテストを実施する。 4 朝学習の時間を利用して、継続的にリスニング能力を育成する。 5 1・2年生全員を対象にTOEIC-bridgeテストを実施する。 6 進学コースの生徒および希望者にはTOEICテストも受験させる。
------------	---

評価領域	芸術科
------	-----

重 点 目 標	音楽への興味関心を高め、音楽的な能力や感性をのばすとともに、地理や歴史、英語などの他領域と関連させ、文化としての教養を深める。	P
▽		
現 状	始業ベルと同時に授業を始めることが出来ており、忘れ物も殆どなく授業に臨む基本的姿勢は身についている。また、指導者側の問いかけに対しての挙手・発言が活発である。 歌唱分野においては、大きな声で歌うことはでききものの、高音域で苦しくなると安易に1オクターブ下で歌う生徒が男子に見られる。	
▽		
具体的な目標	音楽への興味関心を高め、生活の中に積極的に音楽を見いだそうとする姿勢を身に付ける。また、音楽的な能力や感性を伸ばすため、自己あるいは相互評価を表現の技能の向上につながるように工夫する。	
▽		
目標達成のための方策	1 楽譜と声域等の楽典的な内容を含んだ基本事項について、各題材ごとの確認を徹底する。 2 生き方在り方を考えさせることができる教材を多く採り入れ、生涯にわたって音楽を愛好するために必要な基礎基本を身につけさせる。 3 題材を国や地域ごとにまとめ、音楽と他の文化との関係において学ばせることにより視野を広げる。	

重 点 目 標	1 自立して生活するために必要な基本的な知識と技術を習得させる。 2 主体的に課題解決に臨む態度を育成する。
▽	
現 状	1 食分野、保育分野への興味・関心が高く、実習や演習等の協同学習にスムーズに取り組む。 2 2年次の2単位のみという限られた時間での学習であるため、学習内容の精選と実施時期の検討が必要である。
▽	
具体的な目標	1 学習目標を明確化し、発問により主体的に考えさせる授業を展開することで、学習内容の定着を図る。 2 食分野や保育分野において、個別に考え相互に協力して課題解決していく実習や演習等の体験学習を取り入れる。
▽	
目標達成のための方策	1 生徒の自立度を調査・分析し、実態に即した学習内容の精選と教材研究を行う。 2 授業導入時に生徒数名による前時の振り返りと、本時の目標の明確な提示を行い学習意欲を向上させる。 3 ペアワークやグループワークの実施においては、生徒が個別に考え、その意見を基に互いに協力して課題解決するよう配慮する。

P

重 点 目 標	1 【学習】学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。 2 【資格取得】工業や機械に関わる資格取得に挑戦させる。 3 【ものづくり】ものづくりに向かう姿勢を身につけさせ、つくる喜びに気づかせる。
▽	
現 状	1 【学】ほとんどの生徒が、工業に関するいずれかの適性や能力などを身に付けているが、十分に昇華されていない面がある。 2 【資】それぞれの資格を科職員全員で分担し、適切な学習教材の提供や朝・昼・放課後の計画的な補習を行っている。 3 【も】実習や座学をととして、ものづくりに対する意欲や姿勢を身につけている。
▽	
具体的な目標	1 【学】学習内容の精選、指導法の工夫・改善を図り、授業の向上に努める。 2 【資】専門の知識や技術を教員の自己研修により高め、生徒の資格取得指導に活かす。 3 【も】教員のものづくりに対する実践や研究成果を生徒に還元する。
▽	
目標達成のための方策	1 【学】学習・補習指導計画を立案し、朝学習や放課後などの時間も積極的に活用し、全体および個々のレベルに応じた指導を実践する。 2 【資】1年生には、計算技術検定3・2級、パソコン利用技術検定、危険物取扱者乙種4類の資格取得に挑戦させる。 3 【資】2年生には、基礎製図検定や技能士（機械加工・検査）等の国家資格取得に挑戦させる。 4 【資】3年生には、機械製図検定や技能士（機械加工・保全）等の国家資格取得及び上級の資格取得に挑戦させる。 5 【も】実習や課題研究において、人々から必要とされるものづくりや研究、または喜ばれるものづくりや研究を果たす。 6 【資・も】科内研修、校外研修を充実し、教員のスキルアップを実践する。

重 点 目 標	1 社会の変化に対応できる電気技術者の育成を目指す。 2 基本的生活習慣を身に付けさせる。(家庭学習の指導にも重点を置く)
---------	--



現 状	1 年間の指導計画を系統的な内容に見直し実施している。 2 座学で学んだ基礎・基本を実習で再度指導することにより、確かな知識と技能に結び付けるようにした。 3 各学年に対して進路意識や学習意欲の向上のきっかけを与えるような指導計画がなされている。
-----	---



具体的な目標	1 到達目標達成のため、技能スタンダードをもとに職員全員が共通意識を持って取り組む。 2 技能スタンダードにより基礎・基本となる学習・実習等を徹底指導し、基礎学力及び、基礎的技能を身に付けさせる。 3 進学希望者の学力向上を図ると共に、就職希望者のために情報収集や新規職場開拓に努める。 4 技能スタンダードにある資格取得に対し、指導・情報提供等、積極的に支援する。 5 授業態度、服装容儀、礼儀、共同作業等について徹底指導する。
--------	---



目標達成のための方策	1 科会議を定期的に行い、問題点を探り、検討を加え、解決を図る。必要であれば随時会議を持ち、課題等に対応する。 2 実習関係資料の充実と整理を図ると共に、社会の変化に対応した実習内容も考慮する。また、事故防止に関する指導も徹底する。 3 資格取得のため、職員一丸となって講習会・補習等指導を行う。また、それぞれの資格取得に向けた指導を通じ、家庭での学習の重要性を再度確認させ、希望進路の達成につなげる。
------------	---

P

重 点 目 標	1 基礎学力の定着を図り、学力向上を目指す。 2 授業・実習・進路指導等を通じて人間力の育成を図る。 3 資格（測量士補、2級土木施工管理技術検定）を取得する。
▽	
現 状	1 多様な生徒にたいし、個別の指導が必要となる場合がある。 2 実習等の活動と座学を連動させながら、動機付けを図っている。 3 学科・学年と部活動が連携して指導してきている。
▽	
具体的な目標	1 進路実現に向けたきめ細かな指導計画を持ち、特に生徒の自己管理能力と自己成長力の育成を目指す指導を強める。 2 専門教科を通して創造力や論理的思考力を鍛え、産業に貢献する技術者としての誇りと倫理観の育成を目指す。 3 1年生はパソコン利用技術検定3級・計算技術検定3級、2年生は危険物取扱者丙種合格を目指す。3年前半には測量士補、後半には 2級土木施工管理技術検定の全員合格を目指す。
▽	
目標達成のための方策	1 個別面談・三者面談を学年ごとに計画し、進路実現に向けた個別指導を実施する。 2 2年生のインターンシップを通じて、人間関係形成と課題対応能力を養うとともに、各自のキャリアプランニングに役立てる。 3 1、2年生の各種検定試験対策及び3年生の測量士補・土木施工管理技術検定の特別対策授業を実施し、専門的学力を向上させる。

P

重 点 目 標	1 建築科の「学習系統図」と「実技系科目指導内容」を明示し、それに基づいた指導を実践し、基礎基本の習得と工高生としての姿勢を養う。 2 校内外に建築科の活動をPRして、さらに秋工建築科の評価を高める。 3 検定合格率UPとなる指導を充実させる。 4 基本的な生活習慣を身に付けさせる。 5 生徒個々に合った進路指導を充実させる。	P
▽		
現 状	1 今年度の学習や検定はこれだと、生徒が目標を持ちやすくなった。 2 各関係機関との連携を図り、コンクールや技能検定で結果を出してメディアで報道と体験入学等でPRしている。入試が高倍率になった。 3 計算技術検定3級100%、品質管理検定(QC)4級33/35名、3級パ利検32名、初級CAD検定29名、建築CAD検定3級100%、2級建築施工管理技術5/11名、建築大工3級技能士4/4名・2級1/3名。福祉住環境コーディネーター3級3/4名。 4 概ね良好であるが、話を理解して行動できない生徒が増えている。 5 各分掌と連携、科全体の指導により、昨年度は100%達成している。	
▽		
具体的な目標	1 内容の精選と効果的な学習指導を確立する。視覚教材の作成と活用を推進し、興味関心が持てる授業を展開する。理解度の異なる生徒への指導を工夫する。 2 関係機関と連携して、建築の魅力・職業観を育成し、社会に貢献する。体験入学やメディア等でPRして受験生を多くすることで、入学者の質を高める。 3 専門ズバリではなくても、関連している検定に積極的に挑戦させる。品質管理検定(QC)では、品質管理や問題解決を目指す能力、企業活動における基本常識を身につけさせ、その姿勢を学校生活に生かす。 4 授業・実習・製図などを通して、挨拶・言葉遣い・マナーなどの基本的な生活習慣を身につけさせる。また、安全教育の指導を行い、工高生として必要な能力や態度を養う。 5 職業観の養成と生徒個々の適性に合った進路指導を進める。	
▽		
目標達成のための方策	1 「学習系統図」と「実技系科目指導内容」を元に、多様な視覚教材の作成に励み、より効果的な学習指導のために研鑽する。 2 コンクールや技能検定で好結果を出し、PRできるようにする。 3 検定合格のための時間対効果が上がる指導方法を工夫する。 4 職員間の情報交換と生徒とのコミュニケーションを密にする。 5 インターンシップの活用と、進路指導部と連携して情報提供を密にし、面接機会を増やして生徒理解に努める。	

評価領域	工業化学科
------	-------

重 点 目 標	ものづくりと体験的活動の推進 1 専門の基礎的・基本的な技術・技能の定着と体験的学習の推進 2 工業化学科に関する資格取得の推進 3 安全教育の徹底
▽	
現 状	1 他科に比べ、専門性の高い資格取得の機会や競技会が少ないが、危険物取扱者などの国家試験や各種検定試験合格を奨励している。 2 基本的な分析技術の修得を中心とした実習に取り組んでいる。
▽	
具体的な目標	1 ものづくりコンテストにおける化学分析技術向上や環境ボランティア活動に参加し、進路選択・キャリア形成のきっかけとする。 2 危険物取扱者乙種全類取得に満足せず、より高度な甲種取得に挑戦する生徒の育成を図る。また、生徒が公害防止管理者、技能士（化学分析、メッキ）などの資格取得に取り組める環境を整備する。 3 安全教育については、専門科目をとおして通年指導する。
▽	
目標達成のための方策	1 日頃から、ものづくりをとおして専門知識や技術、また環境への興味・関心を持たせるとともに、積極的に各種事業に参加する。また、外部関係機関等と連携することで専門的技術や知識の知識の深化を図る。 2 資格取得に対し、指導・情報提供等、積極的に支援する。特に朝学習の時間を効果的に活用する。 3 実習開始時の点呼時に服装等の点検や薬品等の取り扱いについて注意喚起を促す。

P

[業務組織]

評価領域	総務部
------	-----

重 点 目 標	1 各種行事や会議の効率的な運営を目指す。 2 校舎改築中校舎の各施設の点検に努める。 3 家庭や社会への情報発信・受信に努める。
▽	
現 状	1 関係分掌や外部とも連絡を取りながら調整を図っている。 2 事務部と校舎改修に関わる学科と連絡を密に取り、対応にあたる。 3 P T A 行事やH R 配布物やH P を通じて情報発信を行っている。
▽	
具 体 的 な 目 標	1 各種会議や連絡が効率的に行えるよう調整や資料について工夫する。 2 各施設の点検をしっかりと行い、不具合のある場合は速やかに事務部と対応を検討する。 3 学年部、広報・情報部と協力し、充実した活動とする。
▽	
目標達成のための方策	1 会議が効率かつ効果的に運営できるよう、事前準備を十分に行う。 N D ボードとひな形をより積極的に活用する。 2 毎月の設備点検日だけでなく、校舎改築状況に対応して日頃から各担当箇所や清掃箇所において点検を心がける。 3 P T A 活動について積極的に参加いただけるように働きかける。定期的なH P の更新を行う。随時プリントなどにより情報を発信する。

P

重 点 目 標	1 生涯にわたって自ら学ぶ基盤が培われるように、自ら考える思考力、問題解決力、失敗しても根気強く挑戦する力を養い、時代を生き抜く力を持った生徒の育成をめざす。
▽	
現 状	1 生徒間の学力格差が顕著であり、優秀な成績を収めている生徒がいる一方で、基礎的な学力が不足しており、家庭学習習慣が身につけていないため、授業内容の理解・定着が不十分な生徒もいる状況にある。
▽	
具体的な目標	1 生徒の学習環境を整備し、自己管理能力の育成に取り組む。 2 新学習指導要領に基づいた、授業改善を組織的に取り組む。 3 学力の向上と定着を組織的に取り組む。
▽	
目標達成のための方策	1 授業時数の確保に努めるとともに、生徒の授業への万全な準備・集中、そして学習内容定着に向けての復習を働きかけ、実践する。 2 生徒の言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育む授業を推進する。 3 入試別生徒やこれまでの成績不振生徒の追跡、分析を行う。

P

重 点 目 標	1 生徒・職員の適切な健康管理を図る 2 教室環境の5 S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の指導徹底
▽	
現 状	1 部活動等におけるけがや、心電図検査等での要精密検査の生徒も少なくない。また、心に悩みを抱え保健室を利用する生徒も多い。 教職員の健康診断や人間ドックの結果、有所見者は多数おり自分の健康に不安を持っている。 2 環境美化については、清掃割当に従い比較的良好に活動されているが、新校舎のゴミ捨て場の面積が現在よりも狭くなる。
▽	
具体的な目標	1 心電図検査や健康診断（人間ドック）の結果を踏まえて、要精密検査や有所見者へ早期に再検査等の実施を勧め改善に取り組む。 2 新校舎移転に向けての環境整備と環境美化のためのルール作り
▽	
目標達成のための方策	1 生徒や教職員の有所見者に対し、早めの再検査を養護教諭から勧め学校全体の健康管理に努める。また、教育相談部等と連携を図り、スクールカウンセラーの学校訪問日等を掌握し、生徒・職員のメンタル面での不安や心配に対応できるよう準備しておく。 2 日々の清掃活動を通して環境美化を意識・日常化させる。また、新校舎移転に向けてのゴミの出し方やゴミ削減へのルール作りを年度初めから準備を始める。

P

重 点 目 標	心身ともに健全で豊かな人間性を持ち，社会で通用する生徒の育成
▽	
現 状	部活動に加入している生徒が多く、基本的生活習慣は概ねできている。最近では自動車の過失による事故が増えており、より一層の注意、危険の予測ができる能力が必要である。自転車の無灯火、傘差し、イヤホンをしての危険運転行為の指摘も受けており、交通ルール、モラルを守る大切さを指導したい。男女の整容面や、携帯電話やインターネット利用についての課題もある。自ら考え判断し行動できる自己指導能力を育て、ルールを遵守して整容・健康・安全について自己管理し、トラブルを回避できる生徒を育成するために、全職員が共通認識を持って指導に当たる必要がある。
▽	
具体的な目標	1 あいさつ、整容、遅刻防止等の基本的生活習慣の維持を図る。 2 問題行動・交通事故の予防活動を行う。 3 いじめ・不登校の未然防止や早期発見・即時対応に努める。 4 情報モラル教育の充実を図る。 5 自尊感情、自己有用感の醸成に全校体制で取り組む。
▽	
目標達成のための方策	1 全職員の共通理解のもと、校門指導や服装容儀指導に一貫性を持たせるとともに、日常のタイムリーな指導を実践する。 2 部活動の生活指導を充実させて風紀の改善を推進する。 3 情報モラル教室の開催とネットパトロールの巡回強化により、ネットトラブル等の未然防止を図るとともに、生徒の実態把握に努めて適切な指導を行う。 4 クラス、学年、科、部の活動を通して、帰属意識と自尊感情、自己有用感を高める。 5 各科、学年部、家庭や地域社会と連携・協力して迅速な情報交換に努める。

P

重 点 目 標	生徒個々の希望と適正にあった専門性を生かした進路実現を図る。	P
▽		
現 状	平成27年度 進路実績 1 就職内定率100%（145名） 2 国公立大学合格者（6名） 3 公務員合格者19名 4 進路未定者0名	
▽		
具体的な目標	1 就職内定率100%、第一希望合格率80% 2 国公立大学合格者6名以上、公務員合格者20名以上 3 進路未定者0名	
▽		
目標達成のための方策	1 就職・進学ともに志望の早期確立 ・進路希望調査 ・応募前職場見学 ・先輩講話 ・四者面談 ・オープンキャンパスへの参加 ・データベースによる情報管理などでのキャリア教育の充実 2 就職・進学ともに第一志望の達成 （1）学力の定着：朝・昼補習、勉強合宿、模試の実施と活用 （2）コミュニケーション能力の向上：PTA・同窓会などの協力による面接練習を始めとする面接指導の徹底	

重 点 目 標	1 部活動の充実と発展を目指す。 2 生徒会活動の活性化を図る。
▽	
現 状	1 全国大会に出場する部活動が体育部文化部共にある。 2 各行事において生徒会が積極的に活動をしている。
▽	
具 体 的 な 目 標	1 文武両道のもとに全国レベルのチーム育成を図る。 2 工業高校の特性を生かした行事の実践に取り組む。
▽	
目標達成のための方策	1 文武両道のため、各学年部・教科担当と部活動の顧問の間に入り、学力不足の生徒の成績向上のためと部活動が円滑に活動できるような体制を整える。 2 日常的に生徒会活動を活発におこない、一般生徒との連携を強める。

P

重 点 目 標	生徒の高校生活を充実させるため、教育相談と支援活動を実践する。		P
▽			
現 状	1 学習や部活動に意欲的に取り組む生徒が多く、学校全体を活性化させている。 2 毎年、1年生の中に悩みやトラブルを抱えている生徒がいる。		
▽			
具体的な目標	1 担任と生徒との信頼関係を構築し、生徒指導や進路指導につなげていくために、担任と生徒との面談を中心とした面接月間を実施する。 2 職員の心の健康を保ち、学校生活の環境整備に役立つような職員研修を企画し運営する。		
▽			
目標達成のための方策	1 面接前に、生徒の悩み等に関するアンケートを実施し、個々の生徒が抱えている悩みや問題を把握する。 2 緊急に個別対応が必要な場合、関係分掌と連携を図り、早期の対応策を検討し実践する。経過観察と客観的な記録を共有し、継続指導につなげる。 3 職員研修の実施に向け、開催時期について検討し、実施日やねらいおよび内容等を早めに案内する。		

重 点 目 標	1 図書館の利用促進を図る。 2 視聴覚機器を整備する。
▽	
現 状	1 生徒一人当たりの貸出平均数は2冊／人である。来館者も増えている。 。 高校図書館の利用という面では、平均以上の数字を維持している。 年間100冊以上も図書を借りる生徒がいる一方、図書館に全く足を運ばない生徒もアンケートからはっきりと現れており、クラス間での利用者数の差も大きい。 2 視聴覚室利用では、機器の老朽化改善と可動性・利便性の向上が求められている。
▽	
具 体 的 な 目 標	1 図書のPRや図書館サービスの改善に取り組み、読書意欲を引き出すための工夫をする。また、図書館利用者数のクラス間の差をなくすようにする。 2 視聴覚室利用については、保有機材の有効活用を検討する。
▽	
目 標 達 成 の た め の 方 策	1 蔵書を充実させ、利用しやすい配架を工夫する。 2 新聞・インターネットから情報を掲示して紹介する。 3 図書委員会によるカウンター業務・図書館PR活動・書店訪問による図書購入等で魅力ある図書館づくりに取り組ませる。 4 利用者の少ないクラスへのPR活動を行う。 5 アナログ機材と古い資料（視聴覚室倉庫）の整備をする。

P

重 点 目 標	1 効果的な校内研修の推進と校外研修の促進に努める。 2 効果的な国際理解・国際交流のあり方を探る。
▽	
現 状	1 校内研修会の回数は少ないものの、現状における問題に対しての研修が行われており、内容は充実している。 2 多忙化や授業交換の困難さから職員の校外研修への参加は極めて少ない。 3 天津市との交流事業への参加に、多数の生徒が応募するなど、生徒間では国際交流の機運が高まっている。
▽	
具 体 的 な 目 標	1 授業研究会の充実を図る。 2 校内外の研修・研究成果を各科・各教科に伝達及び紹介する。 3 初任研・8年研・10年研・教育実習・職員研修を計画的に行う。
▽	
目標達成のための方策	1 校内授業研究会を充実させ、その成果を授業に反映させる。 2 研修に関する情報を広報し、研修講座への参加を促す。 3 教務部等と連携して実効性のある校内研修を企画する。 4 教育実習生の受け入れについて、各科・各教科の調整を行う。 5 生徒が国際理解・国際交流に興味・関心を持てるよう広報・案内に取り組む。

P

評価領域	情報・広報部
------	--------

重 点 目 標	1 教育活動における分掌業務の効率化や作業性の改善を図る。 2 広報活動の充実	P
▽		
現 状	1 システムの迅速性やセキュリティ面で、不十分な面がある。 2 様々な広報のための情報発信が必要	
▽		
具体的な目標	1 情報共有の充実とセキュリティを配慮した情報処理環境整備 2 職員のセキュリティの知識を共有できるように支援する。 3 本校のホームページや紙媒体などの広報活動の充実を図る。	
▽		
目標達成のための方策	1 セキュリティの知識に関する資料を作成し、掲示板を活用する。 定期的な情報発信内容を増やすため、各分掌に発信内容を検討してもらう。 2 も	

